

24日に設立総会・懇親会 復建調査設計、経済、文化交流図る

広島ミャンマー協会

復建調査設計
(東区)の小田秀
樹社長、広島アセ
アン協会の小松節
子副会長(ワメン
テックワールド社
長、東広島市)らが
発起人となり、10
月24日に「広島ミ
ャンマー協会」を
設立する。事務局
を復建調査内に置
く。アセアン協会
などと協力し、広
島とミャンマーの
相互理解を深め、
経済・文化・観光

などの交流を推進し、県内留学生を支援。2017年2月にはアセアン協会とミャンマー視察ツアーを共催する。

他の発起人は、広島大の高田隆理事・副学長、エムケー(東広島市)の松川慎社長、広島銀行の三吉吉三取締役専務執行役員。ミャンマーは民主化に伴い、「アジアの最後のフロンティア」として注目されている。広島大、広島工業大、三原国際外語学院などへの県内留学生は15年度の18人から現在、31人に増加。15年末にアセアン協会から2国間協会設立の打診を受けた復建調査が、県や市、(公財)ひろしま国際センター、(公財)ひろしま産業振興機構、ミャンマー大使館などに協力を依頼した。

事務局を務める復建調査は1997年にヤンゴン事務所を開設し、2014年に現地法人を設立。社屋を設計施工し、約100人の現地従業員を雇用する。24日に協会の設立総会と懇親会を開く。年会費は法人1万円、個人3000円、学生1000円、留学生無料を予定し、参加を

呼び掛けている。